

審査結果の要旨

論文提出者氏名 Kurt Hundlbauer (ハンデルバウアー クルト)

論文題目 Spaces of Control : Control of Spaces

A study about mechanisms of spatial control and their application in the context of territorial planning projects in Tokyo

(操作の空間：空間の操作 東京の地区開発プロジェクトにおける空間操作のメカニズムとその応用に関する研究)

この論文は、最近都内で実現した地区計画プロジェクトの調査分析を通して、空間の操作について、その概念的要素やメカニズムを考察したものである。論文の目的は、空間と操作との関係と、その示唆するところ全てに焦点を当て、空間設定の潜在的な意味を説明しうる概念を創出することにある。空間というものが単に独立した存在ではなく、ある意図の表現、背後から操作された力によってもたらされた明確な位置付を持ったものであることを意識しており、題名の - 操作の空間：空間の操作 - はこの関係の両義性を示したものである。

調査対象となったプロジェクトとして、一貫したコンセプト、特定の意図による複合建築計画の行われた地域を選択している。調査対象プロジェクトは、全てここ 12 年間のうちに実施され、公共スペースや消費を目的とした施設の配置構成が似通ったプログラムをもち、民間組織によって実施されたもので、具体的には六本木ヒルズ、恵比寿ガーデンプレイス、ビーナス・フォート、ラ・クーア遊園地である。

論文は 5 章と序文、付章よりなる。

第 1 章「機能構成」では、論文構成の概要を示している。ここでは論文の背景と文脈を明白にしており、研究の方法的側面や既往研究についても触れている。

第 2 章「操作の性質」では、空間操作の課題を考察するにあたって、分析のための軸を探し出すことを目的として、空間と操作との間の関係を理論的観点から議論している。そしてこの分析軸を基準として、関連し合う概念の適用可能性について調査し、空間と操作との間の関係を空間設定の物理的要素という軸から議論している。操作プログラムの指定という軸、操作プログラムの維持という軸は、空間と操作との関係における運営上の要素を示している。

第 3 章「操作の実態」では、第 2 章で策定した分析軸の調査事例との結びつけを試みている。まず、空間表現の問題に関する調査について述べ、その後、各調査対象の概要について説明している。本章の中核にあたるものは、操作の概念的要素という観点からの調査事例の詳細な分析である。各プロジェクトの計画の変遷を見て、プロジェクト背後にあり中核を担う操作について議論している。次に、各プロジェクトの構成要素から、その領域的意味を明らかにしている。さらに、ウェブ上の広報活動による領域の視覚的拡大について調査を行っている。その理由はウェブ分析ツールを使うことで、物理的領域の視覚的な鏡ともいえるウェブサイトの内容の詳細な調査を行うことが可能となったからとしている。これらは各プロジェクトの操作の運営的側面である、プログラムのな特徴についての情報をもたらすものである。最後に、空間設

定の提供者が空間の利用のされ方についての情報を得るための道具であるフィードバック・ループの例を挙げて章の締めとしている。

第4章「操作を仲介する役割としての公共スペース」では、公共スペースを各調査プロジェクトの中の独立した領域的分類として説明している。公共スペースは、空間利用者のための舞台を形成し、したがって公衆を消費目的施設と結びつける鍵となる空間を形作っているとみなしている。さらに、公共スペースは、利用者に対する操作の効果について理解するための鍵となる領域の代表格であるとし、公共スペースの意味、特に社会においてポストモダンがたどった衰退の状況を探り、これに基づき、公共スペースの真の価値はイデオロギー的議論を超えて存在するものであり、実際の利用パターンから指摘されうることを議論している。これに加えて、ビデオ観察結果から、各プロジェクトの特徴的な公共スペースを明らかにし、空間利用形態のほか、空間利用者が空間提供者の明白な操作手法によって行動に影響を受ける「コンタクトポイント： *contact points*」を抽出している。

第5章「操作の影響」では、研究結果をより幅広い枠の中に位置づけ、議論を行っている。すなわち、ウェブの内容分析や空間利用形態の観察の結果から、都市環境の操作が示唆するところについて述べている。最後に、今後の研究に向けての道筋を示唆している。

なお、巻末付録には、調査データと参考文献を入れている。

以上のように、本論文は、最近の都市部における地区計画プロジェクトの詳細な調査分析を通して、空間と操作についてその概念的要素やメカニズムを考察したもので、都市空間についての多くの基本的な知見を明確に示して、建築計画学の発展に寄与したものである。

よって本論文は博士（工学）の学位論文として合格と認められる。